

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320015

研究課題名（和文） インドにおける宗教的空間の象徴性に関する学際的研究

研究課題名（英文） Interdisciplinary research of the symbolism of the religious spaces in India

研究代表者

森 雅秀（MORI MASAHIDE）

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：90230078

研究分野：インド哲学

科研費の分科・細目：インド哲学・仏教学

キーワード：空間論, 象徴性, 儀礼, 宗教実践, 建築, 美術史, 画像データベース

### 1. 研究計画の概要

本研究では、インドのさまざまな宗教的な空間が、どのような形態と象徴性をそなえ、それがインドの文化や思想にいかなる影響を与えたかを、学際的に考察する。伝統的なインド学仏教学においては、空間が主要な研究テーマとされることは、国内外を問わず、ほとんどなかった。しかし、インドに限らず、宗教一般において、空間がどのようにとらえられ、どのように表現されたかという問題は、その宗教を理解する上で、きわめて重要な意味を持つ。儀礼空間や聖地、巡礼などの問題も、空間の表象として理解することで、通文化的な問題となる。本研究では、このような多角的な視点にもとづき、学際的な空間研究を行うことで、インド学仏教学にとどまらず、宗教研究や文化史に関わる新しい領域を生み出すことをめざす。さらに、日本をはじめとするアジア諸国とインドの宗教的な空間が持つ象徴性についての比較研究を通じて、それぞれの文化の持つ独自性ととも、インドの諸宗教の持つ普遍性や多様性も明らかにする。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 研究分担者と研究協力者の参加を得て、研究課題に関する研究会を各年度2ないし3回開催した。本研究ではインドの宗教的空間を(i)概念的空間、(ii)造形的空間、(iii)建築的空間、(iv)実践的空間、(v)歴史的空間という5つのカテゴリーに分けて研究を進めているが、初年度より(i)から順に取り上げ、第3年度において(v)の歴史的空間にまで到達した。研究会ではアビダルマ仏教、部派仏教、大乘仏教、密教、ヴァイシェーシ

カ学派、ヒンドゥー教、タントリズム、イスラム教、建築学、美術史学などの広領域にわたる研究者の参加を得て、学際的な研究発表が行われ、参加者による活発な議論が進められた。その結果、インドの宗教的な空間のもつ多様性とそのあり方、さらに、他文化との比較による独自の空間モデルが提示されるに至った。

(2) インドの宗教的空間に関するデータを収集し、データベース化を進めた。とくに研究代表者がこれまで集積してきた画像データを整理し、関連する文字情報を加えて統合的なデータベースを構築し、HP上で公開した(Asian Iconographic Resources, アドレスは<http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/>)。さらに、金沢大学総合メディア基盤センターと金沢大学附属図書館の協力を得て、インドを中心とする宗教的空間にかんする画像データを、インターネット上でリポジトリとして公開するためのシステム作りを継続的にすすめ、一部を試験的に公開した。今年度の改良点として、従来の主題、作者などの文字情報以外に、Google Earthとリンクさせて、地理情報からの検索を容易にした(<http://www.db02.db.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>)。

### 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している

(理由)

当初の計画では、初年度はインドの宗教的空間の基礎概念を検討し、2年次以降はインド学仏教学の各分野からのアプローチを発表し、全体で討議を加え、理論構築を進め、最終年度で成果をとりまとめることになっていた。これとあわせて、インドの宗教的

間に関するさまざまなデータを収集し、インターネット上で公開し、研究者のみならず一般の人からも容易にアクセスできる環境を整備することもめざした。その結果、今年度までにワークショップ形式の研究会を通算8回開催し、発表件数約30件、参加者数のべ140名におよび、インドの主要な宗教をほぼ網羅することができた。分野としても、インド学仏教学以外に、美術史や建築史等からの研究者の参加が得られた。これらを通して、研究全体の成果をとりまとめが進んでいる。また、データの公開も金沢大学総合メディア基盤センターの協力を得て、すでに試験的には始めている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

当初の予想以上の研究の進展にともない、インドの宗教的空間に関する学際的な研究の方法が、過去3年間の活動の結果、ほぼ確立し、その理論とモデルを提示することが可能となった。最終年度はそのとりまとめと公開を早急にすすめるとともに、研究対象の拡大をはかることもめざす。そのための継続発展的なテーマとして、日本の宗教的空間との比較研究を視野に入れている。インドと日本の研究者が合同で研究に従事し、宗教的空間のより普遍的な理論とモデルを構築することが急務であると考え、科研費の最終年度前年度の応募も行った。採択の可否にかかわらず、日本の宗教的空間に関与する研究者の参加を得て、研究を進めていく予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 4件)

森雅秀, 『観仏三昧海経』「観馬王蔵品」における性と死, 『北陸宗教文化』21, 31-55, 2008, 査読有

森雅秀, 初期パッラヴァ朝におけるヒンドゥー石窟の彫刻, 『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』28, 173-205, 2008, 査読無

森雅秀, 日本人はマンダラをどのように見てきたか『点から線へ』50, 78-102, 2007, 査読無

森雅秀, エローラ第11窟、第12窟の菩薩群像, 『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』27, 99-134, 2007, 査読無.

##### [学会発表](計 1件)

Takashima Jun, Corpus-based analysis based on Bodding's Santal Dictionary, The Third International Conference of Austro-asiatic Linguistics, 2007.11.28, Pune (India)

##### [図書](計 2件)

森雅秀, 春秋社, マンダラ事典 100のキーワードで読み解く, 2008年, 226ページ

森雅秀, 法蔵館, 生と死からはじめるマンダラ入門, 2007年, 225ページ

##### [産業財産権]

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

##### [その他]

ホームページアドレス

[http://web.kanazawa-u.ac.jp/~hikaku/mori/mori\\_top.html](http://web.kanazawa-u.ac.jp/~hikaku/mori/mori_top.html)

<http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

<http://www.db02.db.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>